

論文内容の要旨

報告番号		氏名	佐伯 圭吾
Work-related Aggression and Violence Committed by Patients and Its Psychological Influence on Doctors (医師が患者から受ける暴力被害とその心理的影響)			

論文内容の要旨

背景

医療現場において医師が患者から受ける暴力被害は、医師の仕事への集中力や自信を低下させるなどの悪影響が報告されている。暴力被害の頻度は過去1年間に被害を受けた医師の割合によって報告されているが、この方法では1年間に2回以上繰り返し被害を受けた場合の頻度を評価できない問題点がある。今回われわれは、医師が患者から受ける暴力被害の頻度を、被害発生率（勤務時間あたりの暴力被害件数）を指標として調査し、その発生率比を用いて暴力被害発生の危険因子を明らかにすること。さらに、被害の心理的影響として、外傷後ストレス障害（PTSD）の症状を有する者の割合を明らかにすることを目的として研究を実施した。

方法

2007年の診療所に勤務する全奈良県医師会員1148名に対して、患者から受けた暴力被害についての質問票とPTSD症状の有無に関する質問票（出来事インパクト尺度日本語版 IES-RJ）を郵送し、回答を求めた。本研究は奈良県立医科大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。発生率とその95%信頼区間の推定は、多重ポアソン回帰モデルを用いて行った。

結果

758名（66.0%）から有効回答が得られた。暴力被害の頻度は、1000勤務時間あたり0.20件（95%信頼区間 0.17-0.24）であった。暴力被害の危険因子としては、暴力被害の発生率比が経験年数の短い医師（19年以下）では、40年以上の医師に対して11.0（5.0-25.2）、課税対象所得の少ない地域で勤務する医師では1.6（1.1-2.4）と有意に高かった。診療科では内科医に対して、皮膚科3.8（2.3-6.3）、精神科2.7（1.3-5.6）、眼科1.9（1.2-3.2）で有意に高かった。さらに、過去に患者からの暴力を経験した289名のうち、26名（8.2%）でIES-RJスコアのカットオフ値（24点）以上を認め、PTSDの罹患が疑われた。

結論

医師に対する患者による暴力被害の発生率が明らかになった。危険性の高い診療科や、経験年数の短い医師に対して、暴力被害の予防法や対応法を周知することが望まれる。